

科目区分：国語教育専修・国際理解教育コース，日本古典文学概説
担当教員：小助川元太

日本古典文学史を学ぶ

担当教員：小助川元太

1. 授業の概観

日本古典文学概説は、学校教員養成課程国語教育専修の必修科目であり、また、中学校教諭教員免許状および高等学校教諭教員免許状の必修科目である。また、総合人間形成課程国際理解教育コースでは、日本アジア理解分野の選択科目でもある。なお、当該科目は従来1回生前期に開講されていたものであるが、本年度より、2回生以上の配当科目となったため、受講生の多くは国語教育専修2回生と国際理解教育コース2回生であった。

一口に日本古典文学といっても、それぞれの時代によって特徴が異なる。本講義では、上代・中古・中世・近世の大きな時代区分の中で、それぞれの時代の文学の特徴を概説し、それぞれを代表する韻文や散文を取り上げて講読した。

国語の新しい学習指導要領では「伝統的な言語文化」を重視し、小学校高学年から簡単な古文が導入されることになったが、このような流れの中で、『竹取物語』『枕草子』『平家物語』（祇園精舎）『徒然草』なども、授業で本格的に取り上げる教材として扱われている。これから教壇に立つ学生や海外の人と関わる仕事につく学生たちには、日本古典文学の本当の面白さを知ると同時に、正しい知識を身につけてほしいと考えている。

さて、今年度のシラバスに記載した授業の目的と目標は以下のとおりである。

【授業の目的】

日本古典文学史の概略を把握したうえで、代表的な作品を読解し、その特徴を理解する。

【授業の目標】

1. 日本古典文学史の大きな流れを理解することができる。
2. 辞書を用いながら、古典文学を読むことができる。
3. 代表的な作品の特徴を説明することができる。

上記の目標・目的を達成するべく、以下のような授業と評価を行った。

【授業の進め方】

1. 日本古典文学史についての解説

毎時間、PowerPointを使用し、適宜テキスト（『21新国語総合ガイド』）や補助プリントを参照しながら解説する。

2. 作品講読

毎回配布するプリントに掲載されている本文の一部を口語訳させる。

【授業内容】

今年度は概ね下記のシラバスどおりに授業を行うことができた。

第1回：ガイダンス

日本古典文学史の時代区分、大きな流れ、授業の進め方など

第2回：上代の文学1

概説および記紀

第3回：上代の文学2

万葉集

第4回：中古の文学1

概説および和歌と漢詩文

第5回：中古の文学2

古今和歌集仮名序

第6回：中古の文学3

歌物語と作り物語

第7回：中古の文学4

日記文学

第8回：中古の文学5

枕草子

第9回：中古の文学6

源氏物語

第10回：中世の文学1

歴史物語

第11回：中世の文学2

方丈記・徒然草

第12回：中世の文学3

軍記物語・平家物語

第13回：中世の文学4

軍記物語・太平記

第14回：近世の文学

出版・仮名草子・奥の細道

第15回：試験および解説

【成績評価】

試験（70%）、授業に取り組む姿勢（30%）により、総合的に評価した。

2. 授業評価法

授業評価については、最終授業の際に匿名のアンケートを行った。（24名）質問項目は以下のとおりである。

1. 授業に真面目に取り組んでいましたか？
2. 授業内容は理解しやすかったですか？
3. 授業で学んだ内容で、とくに興味を持ったところやおもしろかったところは？
4. 3について、どのようなところに興味やおもしろさを感じましたか？
5. 意見・要望・感想・メッセージなどがあれば、書いてください。

3. 授業評価結果

1. 授業に真面目に取り組んでいましたか？
ア 真面目に取り組んだと思う。（12名）
イ ときどき集中していなかったときもあった。（11名）
ウ あまり真面目に取り組んでいたとはいえない。（1名）
2. 授業内容は理解しやすかったですか？
ア 理解しやすかった。（13名）
イ ふつうだった。（8名）
ウ 難しかった。（3名）
3. 授業で学んだ内容で、とくに興味を持ったところやおもしろかったところは？
 - ・『太平記』の享受と再生。（5名）
 - ・かつて日記は仕事の内容を記したもので、それを子に伝えるためのものであったということ。
 - ・『方丈記』（2名）
 - ・『源氏物語』（2名）
 - ・文学の再生について。（3名）
 - ・『太平記』が戦前の道德教育に用いられていたこと。
 - ・紀貫之の六歌仙への評価。
 - ・仮名の普及と文学の流れ。
 - ・万葉仮名を読んだこと。
 - ・『平家物語』や『太平記』を元にして作られた作品や考え方。
 - ・平安時代の貴族の暮らしぶり。
 - ・『大和物語』で夫を思う妻が胸でお湯を沸かすところ。
 - ・『奥の細道』

- ・『伊勢物語』『古今和歌集』『大和物語』の読み比べ。（2名）
- ・和歌などの日本らしさ。
- ・日記の公私どちらに対するものなのかという、今と昔の対比。

4. 3について、どのようなところに興味やおもしろさを感じましたか？（以下抜粋）

- ・昔に作られた物語が、その後様々なところに影響を与えていたというところ。
- ・現代とも通じる（ブログと日記文学など）側面に親近感がわいた。
- ・文学が、戦前のように道德教育に関与していると思ってもみなかったのも、新しいことを知った驚きと興味。
- ・昔の作品が後世の政治などに影響を与えた部分。特に織田信長や徳川家康が影響を受けていたというのはおもしろいと思った。
- ・紀貫之が六歌仙を評価していたこと自体も知らなかったが、そこで六歌仙に対して良い評価ばかりではなく、悪い評価までしている点。
- ・特につながりはないと思っていたことが、実は、文学の大きな流れの中ではつながっていたということ。
- ・話の流れ字体はほとんど同じであるが、ある特定の箇所が共通して変化していました。他にもこのようなパターンのあるものがあるのかと、興味を持ちました。
- ・（『方丈記』は）無常というものを伝えるものだというふうに教わっていたのが、自宅の素晴らしさを伝えたいというテーマであったということが意外でおもしろかった。

5. 意見・要望・感想・メッセージ(略)

4. まとめ

1の項目については、授業の進め方をもう少し工夫すれば、集中して受講する学生が増えるだろう。また、2の項目については、比較的意欲的な学生の多いメンバーだったので、概ね良い評価であったが、もう少しわかりやすい授業を心がけなければならないと考えている。3と4については、これまでの経験に基づき、授業に工夫を重ねた成果の現れたところだと思う。今後も学生に興味を持たせる工夫をしたい。